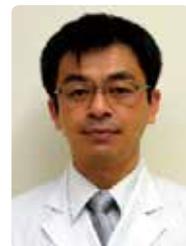


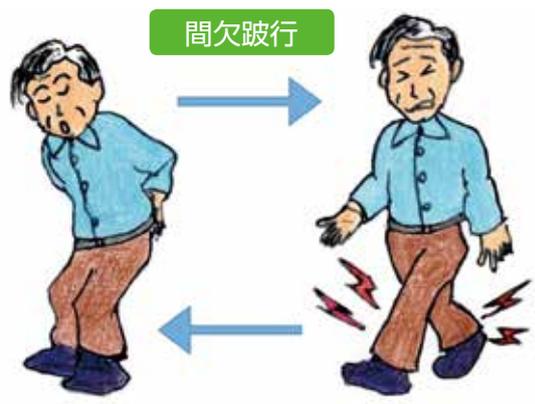
脊椎領域の疾患

整形外科部長兼診療放射線科部長

向山 啓二郎



間欠跛行

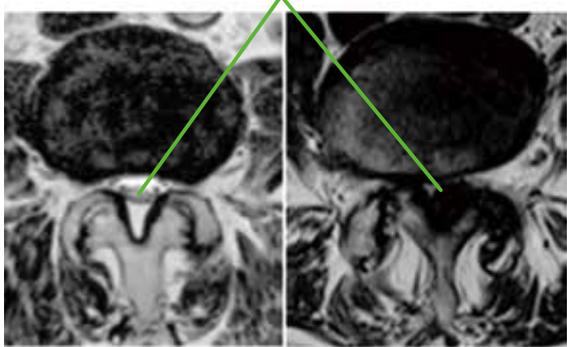


腰をかがめたり、腰かけると楽になる
歩いたり、じっと立っていると下肢の痛みやしびれが出る

事をしていると腰や下肢が痛くなって肘を台の上について休むとか、そばにイスを用意して時々休みながらでないとお勝手仕事ができないなどの症状もこの疾患に特徴的です。長距離を連続して歩くことができなくなったり、長時間立った状態であることができなくなります。このような症状は脊椎の腰の部分（腰椎）の変性によって、その中の神経の通り道が細くなつて神経や血管を圧迫することにより生じます。主に年配の方に生じる病気で、レントゲンやMRIなどの検査により診断されます。

今月は腰部脊柱管狭窄症について紹介します。腰が痛い、おしりや下肢が痛む、しびれる（突っ張る、重だるい、という方もいます）といった症状は先月紹介した腰椎椎間板ヘルニアと似ていますが、症状の出るタイミングや姿勢が異なります。典型的な症状は歩き始めると下肢の痛みやしびれが出てきて、少し腰掛けたり、腰をかがめて休むとまた治って歩けるようになる「間欠跛行」と呼ばれる症状です。また、立ってお勝手仕事を

脊柱管（神経の通り道）



正常
脊柱管狭窄症

進行すれば下肢の感覚が鈍くなったり、筋力が低下してしまったり、排尿排便障害（頻尿やおしっこがうまく出せない状態）が出ることがあります。治療は基本的には手術をせずにいう保存療法を行います。まずは内服薬による治療が行われることが多いですが、効果がない場合、ブロック注射や点滴を行うこともあります。それらの治療にもかかわらず強い痛みが続いてしまう場合や、筋力低下、排尿障害が生じた場合は手術による治療が必要となることもあります。

手術治療にはいくつかの方法が考えられます。背骨を少し削って神経の通り道を広げる方法や背骨の一部を動かさないように固定する方法があります。それぞれの患者さんの背骨の状態に合わせて手術方法を選択します。年齢が高い方に問題となることが多いですが、治せることも多い疾患です。「年齢のせい」とあきらめずにお気軽に整形外科を受診してください。